



「追善供養」という言葉がありますが、その意味について、『仏教大辞典』には次のように説明されています。「人の死後、亡き者の苦を除き冥福をいのるために善根福德を修めて、その功德をたむけるのをいう」とあります。

しかし、浄土真宗においては「親鸞は父母の孝養のためとて、一辺にても念仏もうしたること、いまだそうらわず」と、聖人自らが語っておられますように、浄土真宗の法事においては、亡くなった人を救うために行われるものではないということになります。むしろ法事をお勤めする意味は、私たち自身が救われていくという内容を持っているということなのです。法事をご縁として、私たち自身を言い当ててくださっている真実の言葉に出会うこと、つまり「法」に出会うことなのです。亡くなっていかれた人から、届けられている本当に大切な願いを受け止めることになるのです。

私たちは場を通し、真実を、私にまで届けてくださった方々への感謝の心が生まれ出てくるでしょう。そこに「お念仏」が生まれ出るので。その時、初めて心から手が合され、亡き人を仏様としていただけるのではないのでしょうか。

亡き人は、ただひたすらにこのことを願い、私たちに、はたらきかけていらっしゃるのです。

秋季 永代経 勤まる

―台風接近の中での法要となりました―

去る九月二十八日(金)秋分の日には秋の永代経をお勤めさせていただきました。コロナ感染が下火になっていたとはいえ、心配な状況に変わりなく、執り行うかどうか迷いましたが、春の永代経が一般参詣無しでのお勤めでしたので、午前のみではございましたが、お勤めさせていただきます。

ご門徒の皆様には、ご心配をおかけしながらも、おかげさまをもちまして、なんとか執行できましたことをここに篤く御礼を申し上げます。

今年度の法話につきましては、若坊守が勤めさせていただきましたが、その内容について、ご都合によりご聴聞いただけなかった方のために、動画を撮っております。もし、ご希望があり、パソコンを所有されている方は、メール、LINE、USBを

お持ちいたします。

またお寺の金曜茶話会に来ていただければ、本堂でスクリーンを使って観ていただける準備は調えていますので、ご遠慮なくお越しいただければと思います。

日常生活での生きた仏法として受け止めていただければとてもありがたいことです。



光受寺にご縁のあった多くの方々のご法名をおかけして。

今回の法話に思う

柴間 麻梨絵



本願力にあひぬれば むなしくすべるひとぞなき
功德の宝海みちみちて 煩惱の濁水へだてなし

この和讃に出会い、自分の都合のものの見方や考え方ではなく、ありのままに受け入れ、素直な気持ちで取り組んでいく心に気付くこと、現実から目を背けるのではなく、自分の人生を引き受けて、自分らしく生きて行くこと、そんな生き方をまさに体現されている方たちのお姿についてお伝えさせていただきました。今生きている私たちが自分の人生をどう生き切っていくか、一緒に考えていただけたらいいなと思ってお話しさせていただきました。



台風接近の悪天候の日ではありましたが、多くの方の参詣をいただきました。

本山慶讃法要参加について (受け付け開始します。)

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八〇〇年慶讃法要にご出席のご検討いただくための詳細案内ができましたので、ご案内申し上げます。

期日 令和5年3月25日(土) 日帰り
日程 墨俣地域事務所(7時30分)→不二羽島文化センター(8時)→羽島IC(8時10分)→多賀SA(8時45分～9時)→京都東IC→清水寺拝観・または三年坂散策(10時10分～11時15分)→がんこ西本願寺別邸(昼食)→東本願寺 慶讃法要(12時35分～15時20分)→京都東IC→一名神高速(16時30分～16時45分)→羽島IC(15時20分頃)→墨俣地域事務所(17時45分頃)

費用 3台(90名)参加の場合 8,482円 (私たちは1台車30名乗り) 申し込みは住職まで。 先着順での受付とさせていただきます。
フクチン接種完了証明書・陰性証明書が必要となります。
その他詳細は、参加者の皆様にご連絡いたします。

お願い …もしゴミ袋が足りそうでしたら、いただけると助かります。

人は親を「へんて

親に出会う。

悔やむこともあり、

南無阿弥陀仏。

親の健在な時には、親の思いもなかなか子供に伝わらないものだが、子が親になり、親の年齢に近づいてくると、何かの縁によつて、親から願われていた思いが、ふと思ひ知らされてくることがある。

悔やむことははかりが多いのだが、なぜか懐かしくももあり、悲しくもあり、うれしくもあり、しみじみとした思いがなされるものである。

今は亡き父母ではあるが、静かに手を合わせ、念仏もつす世界で出会わせていただけないか感謝するばかりである。

南無阿弥陀仏。

新コーナー 十二回連載 樹林

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗協賛テーマ
南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていく

— 問い続ける歩みをもとに —

妙好人(Ⅱ) 樹林

7回目

こころの散歩

鈴木大拙先生は、得意の英語を駆使して外国に禅の紹介を行い、日本よりむしろ外国で知られた仏教学者です。この先生が、「妙好人伝」はあるが、「妙好人の研究」はないとして、『妙好人』を刊行されました。記述が高度で自分には十分理解できませんが、才一の覚帳に丹念に書き込まれた記述を紹介しながら、才一が霊性的雰囲気にも包まれた生活であったことが記述されています。

親鸞聖人も靈性に目覚めたのは、京都ではなく越後に流罪になり、生活の為自ら畑を耕し、地元の農民たちと交わる中で、靈性に目覚めていかれたことが記述されています。こうしてみると単なる知識・学識だけでなく、土着の中で自然に触れ合う経験から生まれるもの、そこに靈性の目覚めがあることが分かります。つまり自然への畏敬の念が靈性であると理解できます。妙好人は学識はなかくとも、信仰の深まりに不可欠な靈性に目覚めたことが分かります。



光受寺御遠念法要

光受寺学習会(同朋会) 八日(土) 六時半～八時
金曜茶話会 毎週金曜日 午後一時半～二時まで